

(参考) 次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会

資料3-2

取組方針

5年、10年先の状況を見据えつつ、移動や交通に係る様々な地域課題に対応するため、交通事業者等関係機関と共に、先端技術の活用した次世代モビリティの在り方を検討。

1. 在り方検討会の開催

先端技術と地域課題をマッチングし、具体的なプレイヤー、事業化に向けた検討を実施

区分	組織
交通事業者	(一社)大分県タクシー協会
	(一社)大分県バス協会
	九州旅客鉄道(株) 大分支社
地域代表	(公財)ツーリズムおおいた
	(社福)シンフォニー
技術提供者	(公財)ハイパーネットワーク社会研究所
学識者	日本文理大学工学部
地方公共団体	大分県 商工観光労働部

2. テーマ別実証実験の実施

検討会で検討したテーマについて実証実験を実施

【実証テーマ(案)】

例1. 高齢者の移動手段の確保

・高齢者の移動手段確保のためのAIオンデマンドバスの運行

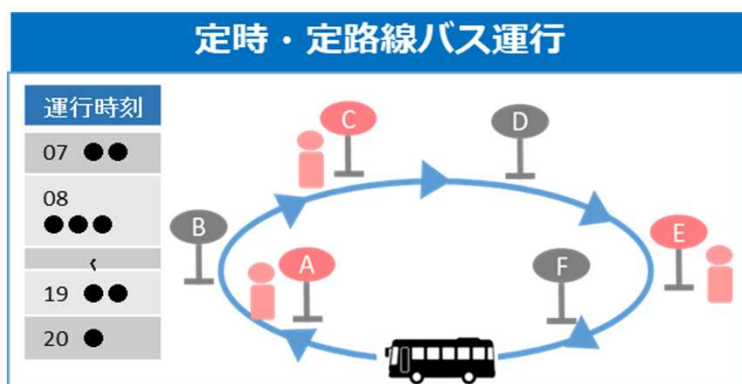
例2. 事業所間の連携促進

・複数の施設等での運行サービスの効率化

例3. 観光地域、大規模イベント施設アクセス対策

・AI等技術による観光地域における周遊の活性化や、大規模施設へのアクセス円滑化

【移動手段の課題解決に有効なモビリティサービス(例)】



AI活用 オンデマンドバス

